

令和2年
7月号

オトナのふるさと学習

月刊このへんだいすき

+Plus

作 セルジュ・タカハシ

記録や形には残らず、日々失われていく地域の記憶
いまさら人に聞けない「このへん」限定のジャンゴな話題あれこれ
3シーズン目突入。読めば読むほど、「このへんだいすき」に

いっぱい学ぶぞ!



退却する源氏軍が、 糸ひく大豆を必死で食べて けっこうイケると納豆に。 「このへん」発祥の証拠あり。

ドキドキ♪



退却する
源氏軍

後三年合戦で、攻めてきた源義家が
たった一度バズマな負け戦を喫して
大雪の中を多賀城に逃げて行った。
沿道つまり雄物川町での戦いのこと。

糸ひく
大豆

糸を引くのは、納豆菌という細菌が
働いて新しい成分を産み出したから。
人に役立つ成分なので発酵と呼ぶ。
有害な成分だったら腐敗といわれる。

「このへん」
発祥

納豆発祥が「このへん」なのは伝説。
それでも納豆発祥の碑は建ってるし、
八幡神社のお祭りでも売ってるかし、
テレビもたまーに取材に来る。

七月十日は納豆の日だとか。
今や発酵食品の代名詞ですが、
初めて口にしたのはよほど勇敢
な人だったに違いないですね。
時は平安時代。「このへん」の
後三年合戦で、沼橋に侵攻した
八幡太郎義家ひきいる源氏軍は、
大雪の中の退却を強いられます。
馬の背に積んだ大豆の残りが
水分と体温で発酵し糸を引いて
いるにもかかわらず、兵たちは
空腹に耐えきれず口にしました。
勇気というより死ぬ気な挑戦。
これが納豆誕生の伝説です。
実際には、世界で同時多発的
に発見されたとされている納豆
ですが、日本には、「このへん」
で生まれて国中に広まったこと
を示す証拠があるとされます。
福島、水戸、滋賀と、納豆の
名産地は義家軍が「このへん」か
ら退却する経路に沿って点在し
ているのです。終点の京都より
西には、生産はおるか長く納豆
を食べる習慣がなかったという
のも何だか笑いますよね。
今や納豆は、健康食品として
全国的に大人気。それもこれも
最初食べた勇者のおかげかも。



POINT

「このへん」であった後三年合戦が発祥と、伝説が語る納豆。
決死の思いで食べた糸ひく大豆が、今や人気の健康食品に。

